

これからの学びを考えてみよう!!

～「GIGAスクール構想」が学校にもたらすものとは～

6月発行のまなび通信 157号～159号にかけてGIGAスクール構想の基本的な情報と、事前準備の1つとしてセキュリティ事故対応研修を紹介しました。今回はタブレット端末を活用した授業づくりについてお伝えします。令和2年度中にSTEP①と②を準備しましょう。

第4号 タブレット端末を活用した授業づくりのSTEP①～③

STEP① 3つの『C』でハードルを飛び越えよう。

GIGAスクール構想が実現し、学校のICT環境が大きく変わります。児童生徒が1人1台の端末を持つようになり、授業づくりを不安に思ったり、ICT初心者だから「教えられない」と思い込んでいませんか？ まずはSTEP①として3つの『C』を意識して、タブレット端末を使ってみてください。

Change ICTを活用した授業に関する意識を変える。

ICT活用の最初の壁となるのが、意識的なハードルの高さです。授業は先生が全ての内容を十分に理解して、子どもたちに失敗なく教える必要はない。その意識を少しChange（変化）させてみませんか？



Charge まずは必要な情報を収集・蓄積するために使ってみる。

タブレット端末の最大の特徴は、手軽に持ち運べるインターネット接続機器であることです。タブレット端末活用の第一歩として、その機能を十分に活用して様々な情報をCharge（収集・蓄積）することからスタートしてみましょう。



【タブレット端末でできる情報収集の例】

- ・インターネット検索
- ・写真機能での画像撮影
- ・ビデオ機能での動画撮影
- ・インタビュー取材等
- ・アンケート調査（FORMS等）

Challenge 表現の工夫や積極的な発信に、挑戦させてみる。

タブレット端末を活用することで、子どもたちは、思い思いの表現方法でアウトプットすることが可能となります。「こんなことができるよ」「やってみよう」で大丈夫!! 子どもたちは自分で自由に工夫します。さあ、子どもたちにChallenge（挑戦）させてみましょう。



タブレット端末に最初からインストールされているアプリケーションで簡単に成果物を作成できます。先生の予想を超える表現が出てくる可能性も!!

※最初に使ってみたいおすすめアプリケーションと機能5選



カメラ

写真・ビデオ撮影ができます。写真の拡大・縮小、タイムラプス（早送り）、スロー再生も活用しやすい機能です。



Point!

子どもたちは、情報収集でタブレット端末を活用する機会が多いと思います。画像の編集や取り込みもタブレット端末であれば簡単にできます。その際、情報モラル教育を併せて指導することも重要です。



スクリーンショット

電源ボタンとホームボタンを同時押しすると、画面をそのまま画像に残せます。ホームページの画像保存等に便利です。



Pages

Officeでいう「Word」のようなものです。レイアウト様式も多くあり、iPad内の画像も簡単に取り込めます。



Point!

Pages、Keynoteには、リアルタイムでの「共同編集機能」があり、みんなが「同時」に同じファイルを編集することができ、グループで効率よく作業を進めることができることも特徴です。



Keynote

Officeでいう「PowerPoint」のようなものです。テーマ様式が多く、ポスター等が簡単に作成できます。



Forms

Office365で使用できるアンケート作成ツールです。アンケートの作成・配布・回収・集計が簡単にできます。小テストや保護者の出欠確認にも活用できます。

アプリケーション活用の3カ条

- ① できるところからやる!!
- ② 習うより慣れる!!
- ③ 授業での使用目的をもつ!!

STEP② 3つの『R』で授業を作ってみよう。

これまでの授業づくりの基本である『めあて（ねらい）・課題・振り返り』の構成や重要性は変わりません。

ICTを活用した授業をつくる時、どうしても『課題』に目が向きがちですが、『めあて（ねらい）』がしっかりとしていないと、ICTを使っただけの授業になってしまいます。また、『めあて（ねらい）』が『課題』を通して達成できているかを、『振り返り』で効果検証することの重要性も、これまでの授業の在り方と変わりません。3つの『R』を大切に授業づくりをしてみましょう。

Research ⇒ 子どもたちの興味・関心、情報活用能力の状況、他の先生の取組（学校内だけでなく全国）をResearch（調査・研究）して、魅力的で子どもが積極的に取り組もうとする課題を設定してみましょう。

Remake ⇒ これまで先生方が実践してきた授業を基本とし、効果的にICTを取り入れて授業をRemake（再構築）しましょう。その際、ICT活用の目的を明確にすることで効果が上がります。

Reflection ⇒ Reflection（振り返り）で学びの成果を実感し、学んだことや意欲・課題意識等を次へつなげます。自己評価だけでなく、他者評価を受けることができるような仕掛けも重要です。

STEP③ 先生の『R』と子どもの『C』で授業サイクルを回そう

STEP①の3つの『C』は子どもたちの授業での取組にも活かされます。STEP③では、STEP②で作った授業を、子どもたちの学習サイクルに連携させて実際に授業を行ってみましょう。

特に大事なことは先生の仕掛けたReflection（振り返り）を子どものChange（変化）に結び付け、次のサイクルへ効果的につなげることです。

